

はありません。不幸にして地震に弱き地盤の土地に住まなくてはならぬ人があるならば、先づ土臺を堅牢にして置いて、丈夫な家を建築するのが良いのであります。さうするとたとへ可なり強い地震がありましたとて全潰の憂き目を見るやうな事は萬々ありません。(完) (文二ノ四、神、比良、天野)

謹

告

お互の便利の爲、且つ、なるべく多くの人の利益の爲、本誌は次號から時に質問欄を設ける事に致しました。本校諸先生にお尋ねの事などがございまして、盛に此の欄を御使用下さいます様にお願ひ致します。(編輯係)

### 綾部君碑銘

細田 劍堂

君諱平輔。本姓西村。考諱芳郁。下總佐倉藩士。妣荒井氏。伯曰茂樹。以道德。仲三島中洲。曰勝。三以事業。皆顯於海内。君天資淳篤。類伯材幹。似仲。年甫十五。選爲幕府砲術傳習員。慶應二年。出嗣清崎藩士綾部氏。冒其姓。任參政。轉銃士隊長。兼砲術教官。明治中興。決志服工業。與仲子相助。致力利用厚生。就洋人學。莫大小機運用之法。設傳習處于東京築地。教養子弟。又學造韓法。及仲子聞製韓工廠。爲其工師。八年。東京府立瓦斯局于芝浦。澁澤榮一爲局長。仲子爲副長。君技師。營瓦斯發生處。埋設瓦斯管。皆有力量。當時官民需耐火煉瓦甚亟。而皆仰給海外。仲子常以爲憾。會工師長洋人慇劄給達氏得耐火土於上州。廼謀之於榮一。私置製瓦處于局內。君從慇氏學其法。究秘蘊。初用牛幹機器。至是。君創思以汽代之。爾來所製益佳。十一年。代慇氏任工師長。仲子更購官設深